



教育・文化・スポーツ

平和祈念館建設と小中学生の慰霊祭への参加について

Q 第21海軍航空廠の学徒動員等による民間犠牲者を祀る慰霊祭は、80歳以上の方々が中心に運営され、今年50回目を迎える戦争の悲惨さを風化させないために平和祈念館の建設や小・中学生の慰霊祭への参加ができないか？

A 平和祈念館建設の趣旨には賛成するが財源を伴うものであり、建設してほしいという市民の声の広がりも必要である。今後の課題としたい。小・中学生の慰霊祭への参加は宗教性や保護者等のコンセンサスなど慎重に判断する必要がある。現時点では難しい。



食育・農育で子どもたちに生きる力を！

Q 食育・農育により、子どもたちに生きる力を学ばせることが必要ではないかと考えている。学校現場ではどのような取り組みをしているか？

A 地場農産物を活用するなどして郷土料理や食文化への理解や健康づくりなどを体験的に学ばせ、食への関心を高めている。また、農業体験を通じて命の教育に取り組んでいる。

子どもたちに世界の一流に触れる機会を！

Q FIBAアジア女子バスケットボール大会は世界の流れに触れるめったにないチャンスである。ぜひ、大村の子どもたちに触れさせ夢や希望を抱いてもらいたい。子ども夢基金を活用して無料招待することができないか？

A 小・中学生のところに本物に触れるという経験は将来の大きな宝となる。子ども夢基金の活用も含め、子どもたちの無料招待を検討したい。



都市整備

親和銀行跡地の活用策は？

Q 12億円にも及ぶ事業でありながら1～3階までの明確な内容が示されていない。議論不足ではないか？

A 昨年6月から庁内で協議を重ね、商店街などからの意見も聞きながら進めてきた。現在、専門家などで組織する懇話会で最終的な方向性を議論していただいており、答申がなされるが、それを受け、詳細を詰めていく。ある程度の議論はできた。

Q 市民交流プラザの計画策定に関わる懇話会ではどのような議論がなされたのか？

A 1階に飲食・物販、2～3階に親子集いの広場とミニホールを計画しているが、懇話会では飲食・物販のあり方、参考とすべき施設、ミニホールの位置など具体的に議論いただいた。

市営住宅の戸数見直しの具体的な方針は？

Q 大村市は類似自治体に比べて市営住宅の戸数が多い。平成22年9月議会では、市長は現在の戸数の2～3割程度を削減する見通しであると答弁した。その後、削減戸数や工程など具体的な方向性はまとまったのか？

A 岩舟、上小路、片町、東諏訪、原口の廃止、竹松の新築計画の縮小、旭町の改造・縮小などにより、現在の1,584戸を平成30年度を目標に1,400戸程度にしたい。

市道米の山赤池線の拡幅工事を！

Q 以前、市道米の山赤池線の拡幅の計画があったが、どうなっているのか？工事は費用をかけずにできる。地権者も協力的なので早急な着手をお願いする。

A 農道整備事業で行う計画だったが諸事情でできなくなった。多額の費用を要するので当面は地元協議や市道整備計画を勘案し、局部改良などで対応したい。